
『ナイフと海と月』

零那

暁～小説投稿サイト～ By 肥前のポチ

<http://www.akatsuki-novels.com/>

注意事項

このPDFファイルは「暁々小説投稿サイト」で掲載中の小説を「暁々小説投稿サイト」のシステムが自動的にPDF化させたものです。

この小説の著作権は小説の作者にあります。そのため、作者または「暁々小説投稿サイト」を運営する肥前のポチに無断でこのPDFファイル及び小説を、引用の範囲を超える形で転載、改変、再配布、販売することを一切禁止致します。小説の紹介や個人用途での印刷および保存はご自由にどうぞ。

【小説タイトル】

『ナイフと海と月』

【作者名】

零那

【あらすじ】

馬鹿を繰り返し
夜の街、裏社会を
知ってしまった。

大切なものを失い
必要だったもの。

『女性施設』

施設から保護所へ逆戻りし、異例の県外留置された施設からも出所した。

社会人として、学生として、両立する為に頑張ってるつもりだった。

それでも、高校生と飲酒喫煙は当然のように行っていた。

そんな生活を覗き見してるかのように職員が現れた。

友達を巻き込みたくないなら此の土地を離れること。

仕事も学校もヤメざるを得ない状況。

また元居た県に逆戻り。

次は18を過ぎてるので入所できる処は限られた。

女性専用の施設だった。

駆け込み寺。

シェルター。

母子施設。

呼び名も入居者も様々だった。

精神薄弱者も居た。

今迄居た人間と離れて寂しい気持ちは勿論在った。
でも此処で自立する為の職探しをするしかない。

やることは決まっていたし解っていた。
だから最初は頑張れたんだろう。

それでもやっぱり職員との争いも絶えず、出て行く宣言をした上で
逃亡もした。
でも、脱走では無い。

それも結局は戻ってくるハメになってしまった。

ついには、純粹な職探しではなく、此処を出る為の策を考え始めた。

『アパレル』

再度、頑張ろうという気持ちは在ったけど『とにかく仕事』ではなく『とにかく此処を出て行ける仕事』って考えだった。

寮あり住込可ってのをメインで探してた。

そんな時、アパレル会社を紹介して貰った。

アパレル関係で仕事があったのは事実。

でもそんなこと諦めてた。

支店として事務所を立ち上げたばかりで、本社は大阪だった。

基本的に寮は在るけどコッチではまだ借り上げる余裕が無くて事務所まで寝泊まり状態だと。

でも、立ち上げ時期に働けるなら其れは貴重な経験になると思った。

これで施設からは出れる。

念願のアパレルも。

でも、甘かった。

する事は、過去の人間関係を洗いざらい書き出す作業、人員収集の為に街頭アンケート、ナンパ待ち・・・そんな事だった。

その中でレイプにもあった。

無理矢理自分を黙らせた。

此処を皆で出て県外の別の事務所に行く事になった。
ちゃんと寮はあった。

男女入り混じりの寝室・・・

展示会形式の販売が行われた。

其の展示会で押し売りの悪徳商法だとハッキリ解った。

展示会販売が終わってもコッチに居るまま。

いろんな理不尽な事に不満爆発。

いろんな人から本社がニュースなってるって連絡が来て不信感のみ。

『ネオン』

知り合いとのメールの流れ。

家も仕事も在るから来い。

迎えに行くからって。

悪徳商法って確信が持てた以上続けることは無理。

この人に頼るのも微妙やけど今のままよりは良いと考えた。

仕事を辞めるにあたって揉めたけど、最終的には誓約書を書かされて辞めることは出来た。

迎えに来てくれた人は、会う度に優しくかったけど、裏では何しよんか解ってなかった。

チンピラなんか解るけど仕事内容がいまいち不明だった。

信用は出来んけど裏切り裏切られる関係性でも無いと思ってた。だから危機感が無さ過ぎた。

雀荘って聞いてた職場はセクキャバだった。

なんだかんだ店長が優しくて良い人で、ほだされた感じになってセクキャバデビュー。

No.1のお姉さんに気に入られて、助けて貰ったりして、尊敬するようになって・・・

辛いこともあったけど自分なりに一生懸命頑張った。

性欲に盛ったギャルが生本番しまくるせいで客質が悪化した。

屈辱な本番行為を受けた。

何が何でも辞める。

固い意志。

辞めんって店長に言われた。

理由は、チンピラに売られてたから。

怒りの矛先、殺す勢いで汚いギャルに向かう。

コイツのせいでこうなった。

バカにし腐って。

殺す。

『裏社会』

ギャルの歯が飛んだ時点で周りに止められた。

話が違うし売られたとか知らなかったしチンピラ呼んで話。顔に泥塗ったとかで借用書書かされたり色々あった。

同時に、友達関係でも色々複雑な問題があった。

夜の世界は素人。

友達も皆、自分より遙かに夜の世界は長い。

其れでも、当たり前のようにそれぞれ悩みはあったりする。

其れが深刻化して、命に関わってくる問題だと気付いた頃には総てが手遅れになってる。

借用書もあったしデリヘルをはじめた。

友達の事も考えたりしながら。

でも友達が居なくなった。

行方不明。

失踪。

違う、此は事件。

裏組織の汚い仕業。

皆が解ってた。

どう動くべきか。

助かる方法は。

見つけだす方法は。

仲間内で一番冷静で賢い子すら、冷静さを保つのは困難な状態だった。

ヤクザ対、一般人。

其れでも、プライドもなくして何でもアリなアイツ等クズ団体は、子供を殺す事なんか躊躇せず簡単にするやろう。

皆で出来る限りを尽くした。

昔関わってた組や、そこらのチンピラ、父親代わりの組長からも情報貰ったりした。

大事な友達の命がかかってる。

コレ以上、大事な友達の命を奪わんといて・・・

毎日が怖かった。

『絶望』

生きた心地もせん日々に終止符を打たれた。

死体となった友達の姿を見せられた。

其れを受け入れれず記憶から存在を抹消した双子の片割れ……

組織に復讐しに行き、犯人を殺すも自分も殺された友達……

悔しいどころじゃない。

どう言えばいい？

こんんなに悔しくて情けない……

こんんなに悲しい……

こんんなに憎い……

こんんなに殺意に満ちた感情……

頭も心も全部の想いがグッチャグチャに混じり合ってて視界すらグニャグニャで……

死んでしまいたい。

消えてしまいたい。

今回は確実に死ねる。

だって銃口は頭やし。

死ねんワケが無いやん。

・・・痛い？

殴られたと同時に銃は取られた。

目の前にいたのは、お父さん代わりの組長だった。

この頃、自分には同時にいろんな事が起きてて、それやのにこんな・・・
こんなサヨナラ、あまりにも辛過ぎる。

大事な友達を、また2人亡くした。

大事な人達・・・これで6人・・・消えてしまったことになる・・・

自分はどれだけ大事な人を亡くしたら許されるん？

そーゆう運命なん？

自分自身が受けるイタミも勿論大きいけど・・・

大事な人を失うイタミは、もっともっとイタくて・・・

もっともっと深い処からイタくて・・・

『夜の海』

考えたところで死人は生き返らない。

泣いたところで死人は成仏しない。

生き返ってくれるなら何でもする。

生き返ってくれるなら……

いや、自分が逝こう。

皆の元へ……

ひと目だけでもまた逢えるなら。

地獄と天国の分かれ道で、ひと目だけでも……

だってサヨナラって言ってないよ？

何度も何度も無意識にナイフを引く。

何度も何度も月に祈りを捧げた。

逝かして下さいと祈り続けた。

空の月に嫌われたなら、水面に歪み浮かぶ月に祈り続けた。

何故こんなに、こんなに自分だけが……

そんな想いでいっぱいだった。

『自分だけが辛い』なんてのは有り得ないってちゃんと解ってる筈なのに、立ち直れなかった。

ただただ、夜の海で、だらだら血と涙を流すだけ……

ナイフと海と月・ ・

大事なものを失った其の時、
必要不可欠なものと居場所だった・ ・

この小説の詳細については以下のURLをご覧ください。
http://www.akatsuki-novels.com/stories/index/novel_id~14754

『+17と海と月』
2015年10月31日 09時29分発行